

# JSCA

# 検定課目ガイドライン

-- 2011年度版 --

日本セーフティカヌーイング協会

Japan Safe Canoeing Association

## 検定課目ガイドライン

このガイドラインは日本セーフティカヌーイング協会・正会員規程及び検定会規定に基づき、指導者育成を目的にこれを定める。以下の内容を変更する場合は、教育普及委員会の承認を得、理事会に報告しなければならない。このガイドラインは会員がいつでも入手可能なものである。

### ●課程内容

■教養課程：全種目共通 .....	1
■基礎課程：カヤック、オープンカヌー .....	2
■応用課程：リバーカヤック、リバーカヌー .....	7
■応用課程：シーカヤック .....	10
■評価の主観的目安 .....	13

### ●受験資格

★受験する年の4月1日現在、18歳以上の者：「<検定会規程> 3. 受験申請（1）」による

★下記の指定講習修了者：講習修了書のコピーを提出

1) 心肺蘇生法講習：受験日から2年以内に下記いずれかの講習

◆JSCA-CPR講習

◆消防局・普通救命講習

◆日赤・救急士講習

◆EMPジャパン・MFA

◆他、匹敵する講習、資格（要問合せ）

2) カヌー安全講習：JSCAセーフティ&レスキュープログラム(SRP)

※単位保持者で上記講習修了していない者は、再受験までに受講し、修了書のコピーを提出する事

★応用課程を受検する場合：下記条件をいずれも満たす者

1) 教養課程受験経験（合否は問わない）

2) 基礎課程受験経験（合否は問わない）

### ●2011年度版ガイドライン発行に伴う移行処置：2005年度版による有効期限内の取得単位の扱い

★教養課程

「1.課目と内容」の表内の「移行処置・互換単位」に示した通りとする

★基礎過程

「1.課目と内容」の表内の「移行処置・互換単位」に示した通りとする

★応用課程：リバーカヤック、リバーオープンカヌー

「1.課目と内容」の表内の「移行処置・互換単位」に示した通りとする

JSCA指導者検定課目ガイドライン -- 2011年度版 --

2011年3月15日発行

発行：日本セーフティカヌーイング協会

編集：JSCA教育普及委員会

## ■教養課程（全6単位）：全種目共通

安全な指導をするに当たり、それに関わる必要とされる指導者としての知識を最低限身につけているかを評価する課程

### 1. 課目と内容：各課目1単位：合計6単位

課目	内容	移行処置・互換単位
総論	JSCA活動について ・目的とそのシステム ・資格認定制度 ・公認スクール ・協会共通プログラム リスクマネジメント概要 カヌーの基礎知識：起源と歴史、専門用語の扱い	旧カヌー概論(2005年度版)
カヌーギア	カヌー用具の基礎知識 ・各道具の名称と特性 ・適切な用具の選択	旧カヌー概論(2005年度版)
フィールド	フィールドの特性と潜む危険要素 ・水の特性 ・フィールドの種類と危険要素 ・フィールド情報：地図、気象等	旧フィールド(2005年度版)
技術	技術分析と方法論 ・カヌー技術の特徴 ・技術分析の考察	旧技術論(2005年度版)
救急法	カヌー活動特有の応急手当 ・可能性のある負傷・症例と 対策、事例 救命処置(CPR&AED)方法の確認と対策 ※心肺蘇生法講習修了者を対象とした内容	旧救急法(2005年度版)
セーフティ	カヌー活動における安全管理 ・カヌー活動に潜むリスクの認識 ・プランニングと実践における判断 ・レスキューの概念と方法例 ・事故事例について	旧セーフティ(2005年度版)

### 2. 講義

講義内容は基本的知識を身につけていることを前提に、カヌーシーン特有な事柄について進められる。従って、事前に一般的な知識を身に付けていることが望ましい。

### 3. 評価と単位認定

90分程度の講義の受講とペーパーテスト（制限時間30分程度）を実施し、担当指導者トレーナー（以下IT）が課目毎に100点満点で採点し、75点以上で該当課目の単位を認定する。

## ■基礎課程（6単位）：カヤック、オープンカヌー

安全な指導をするに当たり、静水フィールドにおいて基本的な技術を理解し実践しているか、基礎的な指導技量やそれに伴う知識を身に付けているかを評価する課程。

### 1. 課目と内容

課目		課題	移行処置・互換単位
静水技術	1-1)カヤック	静水において基本的な艇操作を理解し実践しているか 「静水技術・課目詳細内容 1-1)カヤック種目」を参照	旧基礎1(2005年度版)
	1-2)オープンカヌー	静水において基本的な艇操作を理解し実践しているか 「静水技術・課目詳細内容 1-2)オープンカヌー種目」を参照	
指導技術	2)指導論	インストラクターの役割と指導方法論 ・インストラクターと参加者 ・コミュニケーション ・技術指導の基本的流れ	旧教養課程・指導論 (2005年度版)
	3)模擬講習	ワークショップ形式での模擬講習実習 ・動画教材を利用 ・対象は初級者、静水でのパドリング 技量の絶対評価の実習 ・パドリングテスト ・技量の採点方法	旧基礎2(2005年度版)

#### ●判定の目安

##### ★静水技術：静水フィールドでの艇操作技術の評価

###### 1-1)カヤック

・「静水技術・課目詳細内容 1-1)カヤック種目 判定の目安」を参照

###### 1-2)オープンカヌー

・「静水技術・課目詳細内容 1-1)オープンカヌー種目 判定の目安」を参照

##### ★指導技術

###### 2)指導論

- ・講義受講
- ・ペーパーテスト

###### 3)模擬講習

- ・技術をどのように観察し、分析し、評価したのか
- ・改善するためにどのように（適切に、分かりやすく）アドバイスしたのか
- ・どのようなコミュニケーションがなされたか

### 2. 実施条件：静水技術

基礎的技術の評価するため、外的影響がなるべく少ない静水を設定する。また風の影響も注意し、風が強い場合は出来る限り向かい風で、やむを得ない場合は追い風で実施。斜め風やオープンカヌーにおけるオン、オフサイドによる有利・不利は、採点上考慮する。その他会場の諸条件により、最終的に担当ITが判断する。

### 3. 前漕者：静水技術

検定実施に際しては、指導者資格を有する1名以上の前漕者を用意しなければならない。但し、担当ITが兼務してもかまわない。

### 4. 評価と単位認定

ペーパーテストは担当ITが、それ以外は2名以上のITが、各課目毎に100点満点で採点し、それを元に「静水技術」「指導技術」の各評価が、5段階評価で全てA以上の時、基礎課程・6単位を認定する。

▼静水技術・課目詳細内容

1-1)カヤック種目：リバーカヤック(RK)、シーカヤック(SK)

課目	課題	要求される主たるスキル	
基礎技術	1)フォワード	目標地点に向かって直線的に前進する ・25～50m程度の距離を1回実施	フォワード
	2)バックワード	目標地点に向かって直線的に後進する ・25～50m程度の距離を1回実施	リバース、リバース・スウィープ
	3)サイドスリップ	左右各横方向にスリップする ・ドローとスカーリングで各左右5m程度移動	ドロー スカーリング
	4)スピン	停止状態から、スムーズな定置回転をする ・RKは左右各2回転、SKは左右各1回転 ・RKはフラット、SKは適切なリーニングを行う	スウィープ&スターンドロー +リバース・スウィープ+リーニング
コンビネーション	5-1)8の字漕航(RK)	2点の各ブイを中心とした8の字を描く ・半径5～10m程度の旋回円を描き、8の字を2周 ・リーニングとストロークとの適切なコンビネーション	リーニング+適切なストローク
	5-2)S字漕航(SK)	目標地点に対して左右各45度方向に、円弧を描きながら 繰り返し、前進する。 ・直線で100m程度の距離を1回実施し、繰り返しは左右各2回以上行う ・円弧を描く際は外傾を利用する	外傾+適切なストローク
	6)ターン	直進から、適度な内傾を伴ってターンをする ・連続的に左右のターンを、RKは2回、SKは1回実施 ・RKは180度程度、SKは90度程度回し込む	<RK> バウドロー（パウラダー、デュフェック）+内傾 <SK> ローブレイスターン（ローブレイス、スターンラダー+内傾）
リカバリー	7)ブレイス	艇を傾けてバランスを崩した状態から、パドリングできる元の状態に復元する ・ローブレイスは45度程度以上、ハイブレイスは80度程度以上、艇を傾け、左右各2回実施	ローブレイス ハイブレイス
	8)ロングロール	完沈状態からパドリングできる元の状態に復元する ・左右いずれか片方を1回実施 ・パドルを持ち換えた状態で沈してもかまわない ・フル（360度）、ハーフ（180度）は問わない	ロングロール（種類は問わない）
	9)ショートロール	完沈状態からパドリングできる元の状態に復元する ・左右いずれか片方を、フルロールで連続2回実施	ショートロール（種類は問わない）
	10)レスキュー	漂流者及び自身の安全確保を図りながら、沈した状態の他艇を排水し、漂流者を再乗艇させる ・漂流者の足がつかない深さで、1回実施	TXレスキュー（RK） Tレスキュー（SK）

※5-1) 8の字漕航、5-2) S字漕航は、使用艇によりどちらかが課題となる

## ●判定の目安

## ★殆どの課目に共通する基本項目

- ・課題を達成しているか
- ・各々の技術の目的と効果を理解しているか
- ・一般的に、無理なく効率の良い身体運動をしているか
- ・確実な水のキャッチ、正確なストローク、効率の良いフィニッシュがなされているか
- ・全体のコントロール、バランス、スムーズさが保たれているか

## 1)フォワード

- ・ローテーション運動しているか
- ・方向安定性が保たれているか
- ・スピードがあり、リズムカルか

## 2)バックワード

- ・ローテーション運動しているか
- ・方向安定性が保たれているか
- ・スピードがあり、リズムカルか

## 3)サイドスリップ

- ・スムーズに横方向へ移動したか
- ・方向安定性が保たれているか
- ・パドルシャフトがしっかり立ち、十分な量の水をとらえているか

## 4)スピン

- ・艇の回転が止まらずスムーズに回転しているか
- ・ローテーション運動を含めて、各ストロークが有効に機能しているか
- ・艇をフラットに保ち、その場に留まっているか（リバーカヤック）
- ・回転に効果的なリーニングをしているか（シーカヤック）

## 5-1) 8の字漕航

- ・一定のスピードを保ちつつ、定常的な旋回円が描けているか
- ・右ターンから左ターンへ、左ターンから右ターンへの切り返しはスムーズか
- ・各ストロークとリーニングとの調和が保たれ、有効に機能しているか

## 5-2) S字漕航

- ・一定のスピードを保ちつつ、方向安定性が保たれているか
- ・効果的な外傾とストロークが調和してスムーズな円弧を描けているか
- ・切り返しがスムーズに行われているか

## 6)ターン

- ・上半身は適切にターン内側（先行動作）を向いているか
- ・内傾とストロークとの調和が保たれ、有効に機能しているか
- ・ターン中、艇が失速していないか

## 7)ブレイス

- ・艇の傾け角度は十分か
- ・効果的なヒップスナップが使われ、スムーズに素早く復元されているか
- ・身体（特に肩）に無理のないスキルを使っているか

## 8)ロングロール

- ・完沈状態になったか
- ・効果的なヒップスナップが使われ、スムーズに素早く復元されているか
- ・身体（特に肩）に無理のないスキルを使っているか

## 9)ショートロール

- ・完沈状態になったか
- ・効果的なヒップスナップが使われ、スムーズに素早く復元されているか
- ・身体（特に肩）に無理のないスキルを使っているか

## 10)レスキュー

- ・漂流者と自身の安全確保、漂流者に対して適切なアドバイスとコミュニケーションが図れたか
- ・パウから持ち上げ、スムーズな排水が出来たか
- ・安定した状態で、スムーズに漂流者を再乗艇させたか

## ●使用艇について

- ・リジッド・タイプのクローズド・デッキ・ソロ・カヤックを使用する
- ・スプレーカバーが装着でき、膝のホールドがしっかりした（ロールが可能な）艇
- ・隔壁又は充満したフローテーションバッグを装着する
- ・ラダー、スケグ等の補助具の使用は認めない

▼静水技術・課目詳細内容

1-2)オープンカヌー種目：タンデムツーリングカヌー(TTOC)、ホワイトウォーター・オープンカヌー(WWOC)

課目	課題	要求される主たるスキル	
基礎技術	1)フォワード	目標地点に向かって直線的に前進する ・25～50m程度の距離を1回実施	フォワード+スターンラダー、スターンプライ、Jストローク
	2)バックワード	目標地点に向かって直線的に後進する ・25～50m程度の距離を1回実施 ・方向修正の方法は問わない	リバース、リバース・スウィープ、コンパウンド+方向修正
	3)サイドスリップ	オンサイド方向、オフサイド方向にスリップする ・いずれかのスキルで、各方向5m程度移動	<オンサイド方向> ドロー、スカーリング <オフサイド方向> クロスドロー、クロススカーリング、サイドプライ、プッシュスカーリング
	4)スピン	停止状態から、その場で素早く回転する ・オンサイド方向、オフサイド方向各2回転程度	<オンサイド方向> リバース・スウィープ+パウドロロー、BOXストローク <オフサイド方向> スウィープ+クロスパウドロロー
コンピ	5)8の字走航	2点の各ブイを中心とした8の字を描く ・半径5～10m程度の旋回円を描き、8の字を2周 ・オンサイドからオフサイドへ、オフサイドからオンサイドへの切り返しのスキルは問わない	<オンサイド方向の旋回> Cストローク、Jストローク+リーニング <オフサイド方向の旋回> クロスストローク+リーニング
リカバリー	6-1)リエントリー (TTOC)	足の着かない水深において、ドライ状態の艇に自力再乗艇する	自力再乗艇
	6-2)ロール (WWOC)	完沈状態からパドリングできる元の状態に復元する	ロールの種類は問わない
タンデム技術	7)スピン・パウ	スターンマンと協力して停止状態からその場で素早く回転する ・左右各2回転程度	パウドロロー、クロスパウドロロー
	8)スピン・スターン	パウマンと協力して停止状態からその場で素早く回転する ・左右各2回転程度	スターンプライ、スターンドロー
	9)ターン・パウ	スターンマンと協力して直進から極力失速させずにターンをする ・連続的に左右ターン2回実施	パウドロロー、クロスパウドロロー
	10)ターン・スターン	パウマンと協力して直進から極力失速させずにターンをする ・連続的に左右ターン2回実施	スターンプライ、スターンドロー
	11)レスキュー	漂流者及び自身の安全確保を図りながら、沈した状態の他艇を排水し、漂流者を再乗艇させる ・漂流者の足がつかない深さで、1回実施	TXレスキュー

※6-1)リエントリー、6-2)ロールは、使用艇によりどちらかが課題となる

## ●判定の目安

## ★殆どの課目に共通する基本項目

- ・課題を達成しているか
- ・各々の技術の目的と効果を理解しているか
- ・一般的に、無理なく効率の良い身体運動をしているか
- ・確実な水のキャッチ、正確なストローク、効率の良いフィニッシュがなされているか
- ・全体のコントロール、バランス、スムーズさが保たれているか

## 1)フォワード

- ・ローテーション運動しているか
- ・方向安定性が保たれているか
- ・スピードがあり、リズムカルか

## 2)バックワード

- ・ローテーション運動しているか
- ・方向安定性が保たれているか
- ・スピードがあり、リズムカルか

## 3)サイドスリップ

- ・スムーズに横方向へ移動したか
- ・方向安定性が保たれているか
- ・パドルシャフトがしっかり立ち、十分な量の水をとらえているか

## 4)スピン

- ・艇の回転が止まらずスムーズに回転しているか
- ・各ストロークが有効に機能しているか
- ・艇をフラットに保ち、その場に留まっているか（WWソロ・オープンカヌー）
- ・回転に効果的なリーニングをしているか（タンDEM・ツーリングカヌー）

## 5)8の字走航

- ・一定のスピードを保ちつつ、定常的な旋回円が描けているか
- ・オンサイドからオフサイドへ、オフサイドからオンサイドへの切り返しはスムーズか
- ・各ストロークとリーニングとの調和が保たれ、有効に機能しているか

## 6-1)リエントリー

- ・速やかに、スムーズに再乗艇したか
- ・再乗艇後ガンネルが水面上にあり、排水作業が出来る状態であるか

## 6-2)ロール

- ・完沈状態になったか
- ・効果的なヒップスナップが使われ、スムーズに素早く復元されているか
- ・身体（特に肩）に無理のないスキルを使っているか

## 7)スピン・パウマン

- ・艇の回転が止まらずスムーズに回転しているか
- ・各ストロークが有効に機能しているか
- ・スターマンとの調和が図れているか

## 8)スピン・スターマン

- ・艇の回転が止まらずスムーズに回転しているか
- ・各ストロークが有効に機能しているか
- ・パウマンの意志に連動したパドルワークをしているか

## 9)ターン・パウマン

- ・安定したスムーズなターンをしているか
- ・有効なパウ方向修正が出来ているか
- ・スターマンとの調和が図れているか

## 10)ターン・スターマン

- ・安定したスムーズなターンをしているか
- ・艇の動きを有効にコントロールしているか
- ・パウマンの意志に連動したパドルワークをしているか

## 11)レスキュー

- ・漂流者と自身の安全確保、漂流者に対して適切なアドバイスとコミュニケーションが図れたか
- ・パウから持ち上げ、スムーズな排水が出来たか
- ・安定した状態で、スムーズに漂流者を再乗艇させたか

## ●使用艇について

- ・リジッド・タイプのオープンデッキ・カヌーを使用する
- ・ソロパドルリングの課目では、ソロタイプ、タンDEMタイプどちらを使用してもかまわない
- ・タンDEMパドルリングの課目は、タンDEMタイプを使用する

■応用課程（9単位）：リバーカヤック、リバーカヌー

安全な指導をするに当たり、指導するフィールドに適した技術や知識を身につけ実践しているか、初心者指導におけるの最低限の指導技量や知識があるか、そして全てに渡りセーフティ・ジャッジメントがなされているかを評価する課程。

1. 課目と内容

課目	課題	移行処置・互換単位	
流水技術	1)エディライン通過	指定された地点からエディラインを通過し、指定された地点へ移動する ・フェリーグライド、ピールアウト、エディターン各々、左右各1回実施	旧応用1(2005年度版)
	2)漕ぎ上がり	指定された地点から、上流に指定された地点まで漕ぎ上がっていく ・ITによって設定された時間内で1回実施 ・原則として、前漕は行わない。	
	3)コンビネーション	指定された地点から、指定地点を通過し、目標地点へ移動する ・ITによって設定された時間内のインスペクション後、1回実施 ・流水における総合パドリング力を判定する	
	4)ロール	本流上で、完沈状態から、パドリング可能な状態へ艇を復元させる ・左右いずれか1回実施 ・スタイル、フル又はハーフは問わない	
セーフティ	5)流水フィールド	流水フィールドの基礎知識 ・川の特徴とそこに潜むリスクの予知、判断、対処 ・事故事例	旧応用2(2005年度版)
	6)ツーリング	ツーリング計画と実習 ・情報収集とプランニング ・模擬ツアー ・スカウティングとルートジャッジメント	
	7)レスキュー	流水を想定したレスキュー方法の確認と実践 ・ロープレスキュー ・トゥーレスキュー	
指導技術	8)模擬講習	受験者同士による模擬講習形式での実習 ・対象は初心者と仮定する ・陸上講習 ・静水講習	

**●判定の目安****★流水技術：実践するフィールドでの艇操作技術を評価**

## 殆どの課目に共通する基本項目

- ・課題を達成しているか
- ・積極的に流れを読み、利用し、その状況に適したスキルを使っているか
- ・自分の意志でコントロールしているか
- ・全体を通して安定感があり、リズムカルで適切なスピードを保っているか
- ・全体に無理なく、スムーズな動きをしているか

## 1)エディライン通過

- ・エディラインを確実に突破することができたか
- ・エディライン通過時、流速と目標地点に対して、3要素（スピード、角度、リーニング）をバランス良く保持できたか
- ・指定された地点へ移動できたか

## 2)漕ぎ上がり

- ・流れを読んでコース取りをしているか
- ・コース取りに適したスキルを繰り出しているか
- ・必要に応じて、効果的な力強いストロークが出来ているか

## 3)コンビネーション

- ・流れを読んでコース取りをしているか
- ・コース取りに適したスキルを繰り出しているか
- ・指定ムーブはどの程度出来たか

## 4)ロール

- ・安定的に確実なロールが出来ているか
- ・効果的なヒップスナップが使われ、スムーズに素早く復元されているか
- ・身体（特に肩）に無理のないスキルを使っているか

**★セーフティ：実践するフィールドでの安全に関わる知識と技術、判断力を評価**

## 5)流水フィールド

- ・講義受講
- ・ペーパーテスト

## 6)ツーリング

- ・無理のない、安全が配慮された計画が立てられているか
- ・現場での状況判断が的確になされたか
- ・スカウティング方法やルートジャッジメントは適切か

## 7)レスキュー

- ・状況判断が的確になされたか
- ・作業は迅速にされたか
- ・レスキューする上でのボートコントロールがされていたか

**★指導：初心者講習における指導技量を評価**

## 8)模擬講習

- ・初心者に対し分かりやすい講習をしているか
- ・安全配慮がなされているか
- ・どのようなコミュニケーションがなされたか

**●使用艇について**

- ・カヤックは、リジッド・タイプの流水用クローズド・デッキ・カヤックを使用する
- ・カヌーは、リジッド・タイプの流水用オープンデッキ・カヌーを使用する
- ・いずれも充満したフロテーションバッグを装着する
- ・スローロープ、トゥーライン持参が望ましい

## 2. 実施条件

各課目事に実施条件が異なるので、会場の諸条件により、最終的に担当ITが判断する。尚、「流水技術」に関しては、下記が目安となる。

- ・本流幅5m程度以上あるクラス2～3を含む流水。

## 3. 前漕者

「漕ぎ上がり」を除く「流水技術」の検定実施に際しては、指導者資格を有する1名以上の前漕者を用意しなければならない。但し、担当ITが兼務してもかまわない。

## 4. 評価と認定

ペーパーテストは担当ITが、それ以外は2名以上のITが、各課目毎に100点満点で採点し、それを元に「流水技術」「セーフティ」「指導」の各評価が、5段階評価で全てA以上の時、該当種目の応用課程・9単位を認定する。

## ■応用課程（9単位）：シーカヤック

安全な指導をするに当たり、指導するフィールドに適した技術や知識を身につけ実践しているか、初心者指導における最低限の指導技量や知識があるか、そして全てに渡りセーフティ・ジャッジメントがなされているかを評価する課程。

### 1. 課目と内容

課目		内容
セ ー フ テ ィ	1)海洋フィールド	海洋フィールドの基礎知識 ・海の特徴、気象事象 ・海上交通法規 ・海図、潮汐表、他情報収集
	2)ナビゲーション	コンパスワーク ・基礎知識と実習
	3)リスクコントロール	危険の認識と対処 ・潜んでいるリスクの確認：フィールド、ギア、技量（個人、チーム） ・リスク予知と判断
	4)ツーリング	ツーリングの計画と実習 ・情報収集とプランニング ・模擬ツアー ・ツアー結果の把握
	5)レスキュー	波のある海面で、漂流者及び自身の安全確保を図りながら、沈した状態の他艇を排水し、漂流者を再乗艇させる ・漂流者の足がつかない深さで、1回実施
艇 操 作 技 術	6-1)ボートコントロール ：サーフゾーン	50cm～1m程度の波が打ち寄せているサーフゾーンで実施 ・自身の上陸&出艇を複数の場所で数回実施 ・初級者の安全な上陸&出艇の誘導を実習
	6-2)ボートコントロール ：潮流	3ノット程度の潮流で実施 ・自身の潮流横断を複数の場所で数回実施 ・初級者の安全な潮流横断の誘導を実習
	7)ロール	波のある海面（もしくは同等と認められる状況）でのロール 完沈状態からパドリングできる元の状態に復元する ・左右いずれか片方を1回実施 ・技法、フル、ハーフは問わない
指 導 技 術	8)模擬講習	受験者同士による模擬講習形式での実習 ・対象は初心者と仮定する ・陸上講習 ・静水講習

※6-1)サーフゾーン、6-2)潮流は、会場によりどちらかを選択実施

●判定の目安

★セーフティ：実践するフィールドでの安全に関わる知識と技術、判断力を評価

1) 海洋フィールド

- ・ 講義受講
- ・ ペーパーテスト

2) ナビゲーション

- ・ 現在位置、進路を合理的に示しているか
- ・ 地図とコンパスを正しく使えているか

3) リスクコントロール

- ・ 講義受講
- ・ ペーパーテスト

4) ツーリング

- ・ 提出された計画書の考察
- ・ 無理のない、安全に配慮された計画が立てられているか
- ・ 現場での状況判断が的確になされたか
- ・ 現在位置を常に把握しているか

5) レスキュー

- ・ 状況判断が的確になされたか
- ・ 作業は迅速にされたか
- ・ レスキューする上でのボートコントロールがされていたか

★技術：実践するフィールドでの艇操作技術の評価

6-1) ボートコントロール：サーフゾーン

- ・ 波を読んで安全かつ的確に上陸及び出艇が出来ているか
- ・ サーフィン状態で安定しているか
- ・ 波に対して安全に効率良く艇をコントロールしているか
- ・ ビーチでの危険を理解し、的確に誘導できているか

6-2) ボートコントロール：潮流

- ・ 流れを読んで効率良く横断しているか
- ・ スタンディングウエーブが利用できるか
- ・ 流れに対して安全に効率良く艇をコントロールしているか
- ・ 参加者の動きを理解し、安全に的確な誘導が出来ているか

7) ロール

- ・ 完沈状態になったか
- ・ 効果的なヒップスナップが使われ、スムーズに素早く復元されているか
- ・ 身体（特に肩）に無理のないスキルを使っているか

★指導：初心者講習における指導技量を評価

8) 模擬講習

- ・ 初心者に対し分かりやすい講習をしているか
- ・ 安全配慮がなされているか
- ・ どのようなコミュニケーションがなされたか

●使用艇について

- ・ バウ、スターンともに、水密の隔壁が装備されたリジッド・タイプのシーカヤックを使用し、デッキラインのついているものが望ましい
- ・ ヘルメット、ビルジポンプ、パドルフロート、コンパス、トウライン持参が望ましい

## 2. 実施条件

各課目事に実施条件が異なるので、会場の諸条件により、最終的に担当ITが判断する。尚、5)ボートコントロールに関しては、下記が目安となる。

5-1)ボートコントロール：サーフゾーン

・50cm～1m程度の波が打ち寄せているサーフゾーンで実施

5-2)ボートコントロール：潮流

・3ノット程度の潮流で実施

## 3. 前漕者

「技術」に関する検定実施に際しては、指導者資格を有する1名以上の前漕者を用意しなければならない。但し、担当ITが兼務してもかまわない。

## 4. 評価と認定

ペーパーテストは担当ITが、それ以外は2名以上のITが、各課目毎に100点満点で採点し、それを元に「セーフティ」「技術」「指導」の各評価が、5段階評価で全てA以上の時、応用課程・9単位を認定する。

■評価の主観的目安

★100点満点による点数評価

採点点数	主観的目安
90～	デモになって下さい。
80～	デモの道へトライしてみてもいいですか。
～80	要求している基準は明らかにクリアしています。
75 基準点	要求している基準は満たしているでしょう。今後も精進して下さい。
70～	もう少しですね。目的を絞って精度に磨きをかけて下さい。
60～	練習や経験をもっと積み重ねて下さい。
～60	基礎的な所を見直してじっくりと練習しましょう。

★5段階による総合的評価

評価値	主観的目安
A A A	素晴らしいです。
A A	とても良いです。
A	良いです。今後も精進して下さい。
B	もう少しですね。
C	更なる研修を積み重ねて下さい。